

マテリアリティ

用語解説

ダブルマテリアリティ

社会課題などの外部環境の変化が事業に与える影響に加え、会社の活動が外部のステークホルダーや環境・社会に与える影響を評価し、マテリアリティを評価する手法

マテリアリティ

NSKグループは、ダブルマテリアリティの考え方にに基づき、私たちが重点的に取り組むべきサステナビリティの分野をマテリアリティ（重要課題）として、9項目を特定しました。

マテリアリティの特定プロセス

STEP 1 マテリアリティ評価対象の選定

短期および中長期的な視点から、社会課題解決への貢献とNSKの持続的成長に影響を与える、または与える課題をピックアップし、製品の安全性、脱炭素社会への貢献、地域社会の発展などの項目をマテリアリティ分析の評価対象として選定しました。選定にあたっては、以下を中心に検討しました。

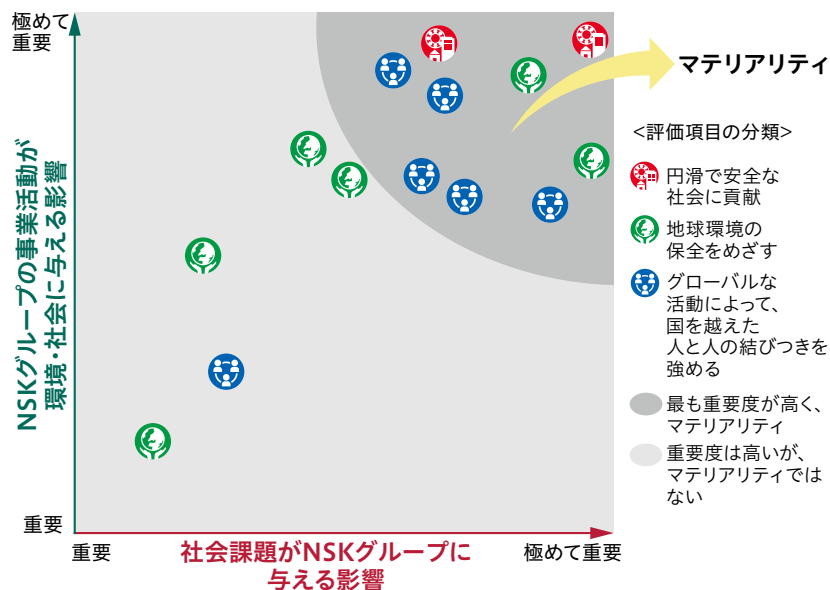
検討した基準・アンケート等

- SDGs ●GRIスタンダード
- SASBスタンダード ●ESRS
- ESG調査機関のアンケート
- 機関投資家へのアンケート／ヒアリング

これらの評価対象項目は、NSKが企業理念に定める「円滑で安全な社会」「地球環境の保全」「人と人との結びつき」との関係、コアバリューに位置づける「安全」「品質」「環境」「コンプライアンス」との関係、さらにNSKのSDGs宣言や中期経営計画2026（MTP2026）の取り組み課題、毎年のリスク棚卸しから明らかになった課題、顧客やサプライヤーなどのステークホルダーと連携して取り組んでいる活動と整合しています。

STEP 2 マテリアリティの特定

評価対象項目について、「NSKグループの事業活動が環境・社会に与える影響」（インパクトマテリアリティ）と「社会課題がNSKグループに与える影響」（財務インパクト）の重要度を、ポジティブ／ネガティブの両面から評価・マッピングし、最も重要度の高い項目をマテリアリティとして9項目に絞り込みました。



STEP 3 経営会議にて審議

特定した9項目のマテリアリティについて、執行部門の代表者により構成される経営会議の審議を経てCEOが決定し、オフィサーズ・ミーティングを通じてNSKグループ内に共有、取締役会に報告しました。なお、マテリアリティは、当社の経営状況や社会情勢の変化、ステークホルダーからの要請の変化等を踏まえて継続的に見直しを行っていきます。*

※ 上記特定プロセスの設定と分析内容の妥当性の評価について、外部の専門コンサルタントの知見も活用しています。

マテリアリティ一覧

企業理念	コアバリュー	マテリアリティ	MTP2026 3つの経営課題	取り組み事例	SDGs(関連するゴール) ▶ P.38	詳細 ページ
 円滑で安全な 社会に貢献	安全 品質 環境 コンプライアンス	① 製品の安全性と信頼性の追求	ESG経営	● Total Quality No.1の推進 (NPDS  用語集、NQ1、人づくり)	   	▶P.25, 40
② トライボロジーとデジタルの 融合による価値創出		経営資源の強化 収益を伴う成長	● 生産の超安定化 ● Bearings & Beyond	 	▶P.18-19, 30, 32	
③ 脱炭素社会構築への貢献		ESG経営	● CO ₂ 排出量の総量削減 ● エネルギー売上高原単位の削減	    	▶P.42-48	
④ 循環型社会構築への貢献 (省資源・リサイクル)		ESG経営	● 省資源、リサイクルの推進 ● 製品の小型・軽量化、長寿命化	   	▶P.49	
⑤ 労働における基本的権利の尊重		ESG経営	● 労働コンプライアンスの徹底 ● 人権尊重	 	▶P.51	
⑥ 誠実、公正、信頼される 企業文化の醸成		ESG経営	● 企業理念の浸透 ● コンプライアンスの強化		▶P.50	
⑦ 人的資本の価値最大化		経営資源の強化 ESG経営	● 多様なキャリアの開発・支援、DXの活用 ● 働く環境づくり(健康・安全)	 	▶P.34-37	
⑧ 持続可能なサプライチェーン マネジメントの実現		経営資源の強化 ESG経営	● QCDの向上 ● 環境／人権等の取り組み連携	 	▶P.41	
⑨ 地域経済の発展への貢献		収益を伴う成長	● 地域社会との共存共栄	  	▶P.33, 38	